

*Precious Words  
from  
kageki Shimoda*

はな世代に贈る

# 言葉の花束

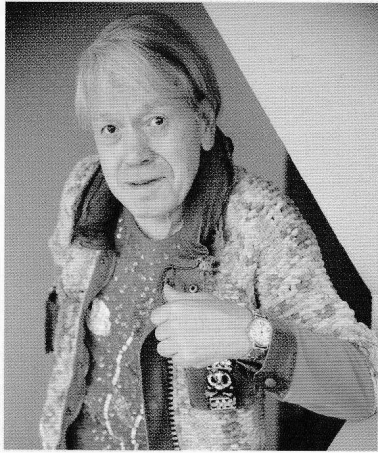
## 志茂田 景樹

「人生、今が出发点」—

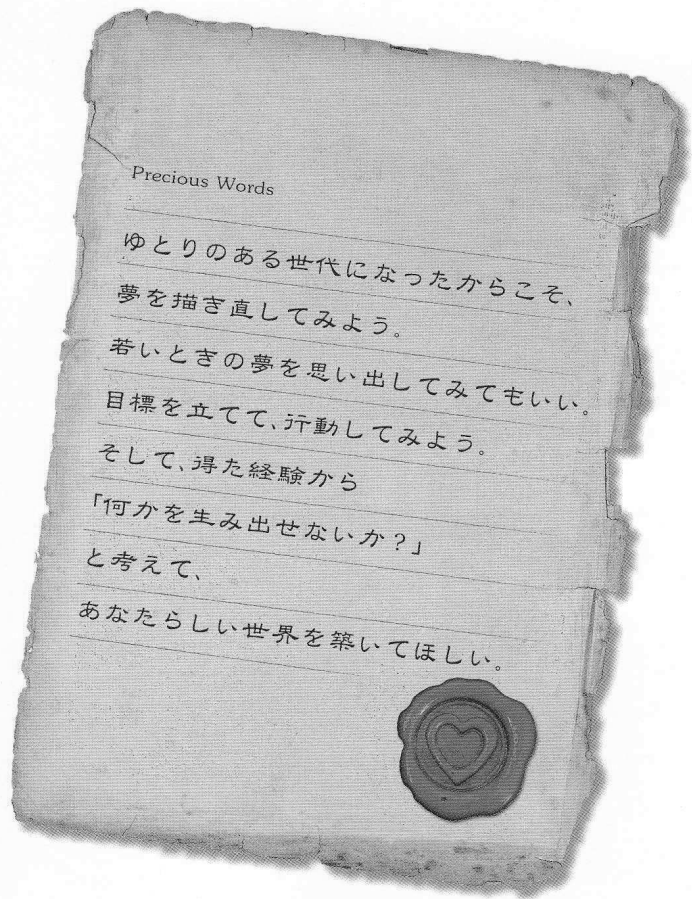
何かを始めるのに、  
遅すぎるといふことはないのです。

何歳になっても、  
あなたはあなたらしく輝いて生きられます。  
時に悩み、不安を抱えるあなたへ届けたい、  
僕からのメッセージ。

写真 宗野 歩



志茂田景樹  
1940年生まれ。40歳のとき『黄色い牙』で直木賞を受賞し、ミステリー、歴史、エッセイなど多彩な作品を発表。1996年、自作の絵本や童話を発行する出版社、KIBA BOOKを立ち上げる一方で、1998年より子どもたちへの絵本の読み聞かせ活動を全国で行う。2010年から開始したツイッターでは、心に響く名言や人生相談への的確なアドバイスが共感を呼び、多くの愛読者がいる。



Precious Words

ゆとりのある世代になったからこそ、  
夢を描き直してみよう。  
若いときの夢を思い出してみてもいい。  
目標を立てて、行動してみよう。  
そして、得た経験から  
「何かを生み出せないか？」  
と考えると、  
あなたらしい世界を築いてほしい。

ゆ

ゆとりのある世代になったからこそ、時間をつぶすのではなく「どう生かそうか？」というところが大切です。単に時間を楽しくつぶすだけになると、すぐマイナス的な考えになるんですね。80代で認知症になった人を見て、「自分もあの歳になったらあんなんじゃないか」と思ったりします。そういう後ろ向きな考え方ではなく、「あの歳になつて認知症にならないように生きるにはどうするか？」という気持ちでいるためには、「時間を生かす」生き方をすることです。

「時間を生かす」ということは「何かを学習する」ということじゃないでしょうか。そのためには、これをやっていこうという目指すべきものをきちんと構築したり、夢を描き直したりすることが必要なんです。皆さんそれぞれに苦労を重ねてきていますから、若い時の夢を自ら断って、そ

後の人生に進んだ方も多いと思います。そんな若い時の夢を思い出してもいいし、新たに描き直してもいい。

今、元気なことを、どのようにプラスなものに結びつけていくかが一番大事です。元気を資本にして、投資して、もっともつと豊かなものを生みだそうとしてみてください。

本当に楽しいことというのは、今まで知らなかったことを知り、今日やったことを結び付けながら、再生産して継続できることに取り組むことです。ただ楽しいことはね、物足りなくなりますが。逆に物足りないと感じないなら、太平的になって、感受性が錆びついてきていると思ったりはいいですよ。若々しさに大切なのは、やっぱり感受性なんです。

結局、「死ぬまで研鑽」ということですね。吸収意欲が下がると、老いるのが早くなります。はな世代こそ、貪欲に求めて

ください。「ここまで生きられたんだから、これでいいや」と思った瞬間に、ただ単に遊び呆けるほうにいつてしまう。それだともつたいないんです。まだ、これからの人生は、結構長いのですから。

たとえば、介護ボランティアをやっていると、新しい展開ができて、新しい展開ができていかと、考えてみるんです。介護している人の人生を問わず語りに聞いてみる。そういうものが多くの人を感動させる作品になるかもしれない。

その人がふともらした言葉の意味を考えてみる、介護の在り方の問題そのものが、浮かび上がってくるかもしれない。

「そこから何を生みだすことができるか？」という意識を常に念頭に置くことによって、違う世界が開けていくはずなんです。

ぜひ、取り組んでいることから興味あるものを見つけて、あなただからこそ築ける世界を広げて下さい。